

女性部研修「晩秋・奥会津の旅」



榎ノ木

第拾六号

平成30年3月11日発行

青壮年部女性部広報

題字：大内翠峰

国内最大級、高さ約8.5mの十一面千手観音（立木千手観音堂前）にて

平成29年11月19日（日）女性部研修、奥会津、会員はもちろん、樹木葬会員、御詠歌の皆様、青壮年部総勢26名の方々が参加されました。朝7時出発、当日は寒く雪がちらつき、会津の天気予報は雪でした。福満虚空藏菩薩圓藏寺では、雪と雨が混じり、傘をさしての見学となりました。圓藏寺は、赤べこ発祥のお寺です。次に恵降寺・立木観音（伝・弘法大師作）堂拝観でした。講話を聴き、だきつき柱に抱きついて、お願いをしていると「長げえごだ」とみんなにからかわれました。



いざなり赤ベゴでっけえごだ！！

青壮年部・女性部 副部長
早坂妙子

「だきつき柱」に抱きついて心願すれば、満願成就するとの信仰が厚いところで、子年生まれの一二代守護木尊であり、ころり観音に私達は願いました。昼食は、明治・大正時代の面影を残す『澁川問屋』で会津の郷土料理を頂きました。その際に、白虎隊の演武も見させて頂き小学校の修学旅行を思い出しました。最後に会津漆の資料館を見学、買ひ物。昔の道具や、民芸品等が展示されて懐かしかったです。寒い日ではありませんでしたが、心配した大雪にはならず、午後には曇り空でした。帰りのバスの中は、恒例のピンゴゲームを行い、景品を手には笑ったり、寝る暇もなく楽しい一日でした。また来年になりますが、多くの皆さんが参加されることを期待しお礼とさせていただきます。



白虎隊の舞と郷土料理を堪能



大般若經典全六百巻を一斉に転読する声が本堂一杯に響き渡りました。



大領派寺院の和尚様方。



本堂いっぱいの六百巻の経本

大般若祈禱といえ、和尚様方が大般若経本全六百巻を大迫力で読み上げパラパラと転読します。「降伏一切大魔災障成就！」その掛け声とともに般若心経本をアコーディオンのごとく左右に傾け転読する様は、いつもの厳かな仏事とは違い、本堂に轟く和尚様方の大声が腹に響き圧倒される大迫力の行事です。

降伏一切大魔災障成就！

本堂に轟く！

成道会・大般若祈禱

平成29年12月9日(日)年の瀬も迫り、一年の締めくくりとして、三仏忌のひとつであり、お釈迦様がお悟りを開いたことを祝う成道会と大般若祈禱が執り行われました。当日は、肌寒い薄曇りの中、三十余名の和尚様方がご出頭いただきました。

贈再住妙心當山再建英洲雄禪師大和尚小祥忌



瑞巖寺起雲軒老大師導師の下、法縁の御尊宿の御出頭を賜りました。



先住職の墓に向かって塔下（とうあ）諷経



老師の拝に答え、五体投地する住職・副住職



大雄和尚の頂相（ちんそう）（肖像画）

境内の池に、例年よりも少し早く、薄氷がはり始めた12月10日、当山先住職、黒川大雄和尚（贈再住妙心當山再建英洲雄禪師大和尚）の、小祥忌（一周忌）が厳修されました。

先住が去ったことで、心情、環境、共に様々な変化があったはずの一年ですが、本当にあつと言つ間に、過ぎ去ったように感じられます。

当日は、松島瑞巖寺、起雲軒老大師ご導師の下、法類寺院はじめ多くの御尊宿方に御出頭賜り、また総代様を始め、多くの方々に参列いただきまして、無事、小祥忌を終えることができました。厚く御礼申し上げます。今後とも先住職の教えを忘れずに、一層精進して参ります。

禪興寺副住職 梅澤 竜潭

東日本大震災復興支援



仙台公演に駆け付けた地元会員等で記念撮影パチリ！



禪興寺も被災者招待支援

わらび座 シパン青春記観覧記

青壮年部・女性部広報部長 小川弘吉

東日本大震災復興支援活動の一環として劇団わらび座ミュージカル『シパン青春記』を観てきました。

はじめての本格的なミュージカルで大変感動しました。

この作品の主人公は、江戸時代初期の慶長の津波に多くのものを奪われた、石巻辺りの名もなき若者。

荒れた震地は、未だ回復せず、家族や仲間を奪われた人々の心の傷もまだ癒えていない。



主役と準主役は地元仙台出身！

そんな中、伊達藩主伊達政宗公は、巨大帆船サン・ファン・パウティスタ号の建造により若者たちに下働きの新しい仕事を授け、ヨーロッパへの使節団の派遣は、大いなる震災からの復興政策だったのではないかという新説に基づく脚本です。

「その船に乗りたい！」

船出への夢に取りつかれた若者は、何とかしてこの船に乗ろうと知恵を絞り、手を尽くし、奮闘して、まだ見ぬ新世界を目指す青春物語です。

舞台上での動きや台詞・歌・踊りやダンス・和太鼓が物語とマッチしていて、あっという間に時間が過ぎていき大満足でした。



百年以上前（明治末）に私たちのご先祖が寄進した涅槃図の前で（マスク姿は誰だ？）

どうして涅槃図に猫

がいないのか？

涅槃会が2月10日に当山本堂において五十名の参加のもとに行われました。

仙台市北山の臨済宗東福寺派の光明寺副住職大内顕龍師を講師にお迎えして法話を頂きました。

お話の冒頭は「涅槃図に描かれていない身近な動物は何でしょう」との質問でした。

正解は「猫」。参加者で分かっていたのはただ一人でした。なぜ「猫」だったのかいろいろなお話をお話してくださいました。

十二支の中から外されている（？）事もその一つかもしれません。

「涅槃」と聞くと私たちはお釈迦様が亡くなったことを思い浮かべますが、本来は、釈迦の教えの「ニルヴァーナ」が涅槃と漢訳されています。

これは迷いの無い絶対の境地を意味しそこに至る為には、「自分を抛り所として行きなさい」ということを教えておられることです。

二千五百年前の2月15日に亡くなられたとされるお釈迦様のご遺徳を偲び、その説かれた「生老病死」に始まる「四苦八苦」の葛藤や困難を乗り越えられるよう生きていきたいものです。

法要後は、お待ちかねのお汁粉とハゼ出汁で知られる仙台雑煮に舌鼓を打ちました。

毎度ながら浅井房枝女性部長さんはじめ女性部みなさんの愛情たっぷりな馳走を美味しく頂くことも、お釈迦様への「供養」と勝手な解釈をいたしながら、「さっぱ」とキレイに頂きました。感謝 合掌



「涅槃妙心」を背に法を説く大内師



準備も調い、ホッと一息！？賄い飯



ミャンマー僧院内の様子



震災の年 12月の成道会にて講演していただきました。



自転車で世界 80 カ国以上を踏破！

お久しぶりです！
大友忠さん
「ミャンマーの旅写真展」



ミャンマーを自転車で旅したばかりの写真の数々どれも見たこともない景色です。

コラム 「寺院の山号について」

山号とは仏教寺院に付けられている称号ですが、付けていない寺院もあります。

古く中国では、寺院は山林や高地に多く建立され、その所在する土地の山の名称や仏教用語を「山号」として付けています。

同名の禅宗寺院が各地に建立され、その区別をつける目的もあったようです。所謂、「屋号」のようなものですね。鎌倉から平安時代に朝鮮・日本に禅宗が伝来すると、鎌倉五山、京都五山の禅宗寺院を中心に「山号」を付与するようになったようです。

禪興寺の山号は「清浄山」。地元、吉田出身の名僧「大領義猷和尚」が、あの松尾芭蕉が松島を訪れた際に、瑞巖寺百二世の住職でありました。東北の随一の禅寺、「松島青龍山瑞巖田福禅寺」は正しく読めますか？ ※答えは欄外

今後の行事予定

- ◎3月25日(日) 午後4時 春彼岸 境内墓地清掃
- ◎4月14日～16日 大本山妙心寺団体参拝
- ◎5月19日(土) 子育て地藏祭り、花祭り(降誕会)、法話
- ◎6月青壮年部・女性部総会
- ◎8月11日(土祝) 孟蘭盆施餓鬼会
- ◎8月 お盆後 境内墓清掃

編集後記

平成30年、今年の冬は低温マイナス気温や、雪の量が半途ではない、大変な毎日をお過ごしではないでしょうか？

また、この時期はインフルエンザの流行と、体調管理に於いても気をつけていかねばなりません。

今回の広報誌も、各行事毎、立派に仕上がりましたのでご覧下さい。



愛犬「おいどん」に「仏性」ありや？

発行

禪興寺花園会青壮年部・女性部 広報部
〒九八一・三六二五
宮城県黒川郡大和町吉田字長福寺一
電話番号 〇二二・三四五・二〇六三

広報部 部長 小川弘吉
副部長 相澤敏晴
部員 佐藤 彰 早坂妙子
浅野澄江